

千葉市感染症発生動向調査情報

2013年 第1週 (12/31-1/6) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		1週	52週	51週	50週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	14	17	14	17
	眼科	4	4	3	4
	インフルエンザ*	24	23	21	25
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	12/31-1/6	12/24-12/30	12/17-12/23	12/10-12/16	12/24-12/30
			1週	52週	51週	50週	52週
小児科	RSウイルス感染症		1 0.07	10 0.59	10 0.71	3 0.18	61 0.48
	咽頭結膜熱		0 0.00	2 0.12	1 0.07	2 0.12	24 0.19
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		12 0.86	31 1.82	43 3.07	45 2.65	242 1.89
	感染性胃腸炎	↓↓	32 2.29	139 8.18	208 14.86	275 16.18	1,494 11.67
	水痘		11 0.79	34 2.00	19 1.36	20 1.18	223 1.74
	手足口病		0 0.00	4 0.24	5 0.36	7 0.41	31 0.24
	伝染性紅斑		3 0.21	0 0.00	0 0.00	1 0.06	3 0.02
	突発性発しん		5 0.36	6 0.35	7 0.50	9 0.53	48 0.38
	百日咳		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	7 0.05
	ヘルパンギーナ		0 0.00	1 0.06	1 0.07	0 0.00	4 0.03
	流行性耳下腺炎		0 0.00	1 0.06	2 0.14	1 0.06	36 0.28
インフル	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	↓	44 1.83	99 4.30	64 3.05	40 1.60	967 4.84
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	流行性角結膜炎		1 0.25	1 0.25	2 0.67	1 0.25	21 0.70
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	4 4.00	1 1.00	1 1.00	0 0.00
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	2 2.00	1 1.00	1 1.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(4件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
マラリア	男性	20歳代	病原体の検出	梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	男性	60歳代	病原体の検出	風しん	男性	40歳代	血清IgM抗体の検出

・マラリア1件(1)、劇症型溶血性レンサ球菌感染症1件(1)、梅毒1件(1)、風しん1件(1)の報告があった。

()内は2013年累積件数 ※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第1週のコメント

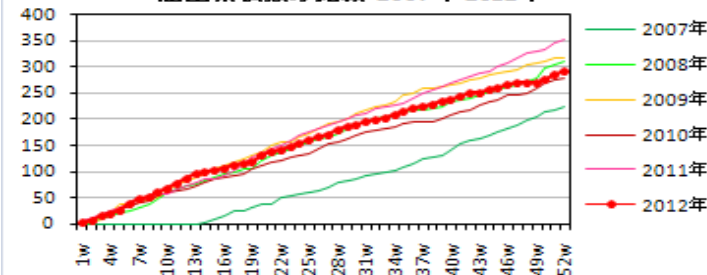
特になし

トピック

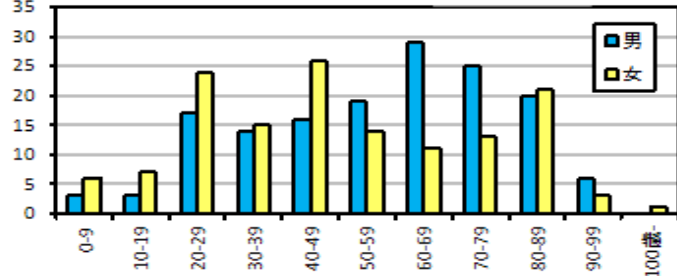
<結核>

2012年の全国レベルの累積数は、過去5年間の同時期と比べて最多となっています。都道府県別では、東京都、神奈川県、愛知県の順で発生が多く見られます。千葉県は全国で5番目に多くなっています。千葉市では、届出累積数は293で、過去5年間の同時期と比べてやや少なめとなっています。性別では、男性が多くなっています。病型別では、無症状病原体保有者の占める割合が増加傾向にあり、2012年第45週現在では3割以上を占めています。肺結核は60歳代の男性及び80歳代女性で多く、無症状病原体保有者は男性では20歳代～30歳代、女性では20歳代と40歳代が多くなっています。職業別では医療関係者の占める割合が増加傾向にあり、特に20歳代と40歳代の女性で顕著ですが、医療機関での結核健康診断(血液検査)の実施率が高まってきていることも要因の一つとして考えられています。結核は、現在においても国内で最大の感染症です。肺結核で一番多い症状は、咳・たん・発熱・倦怠感・体重減少などです。特に、咳が2週間以上も続く場合には、必ず医療機関で診察を受けましょう。

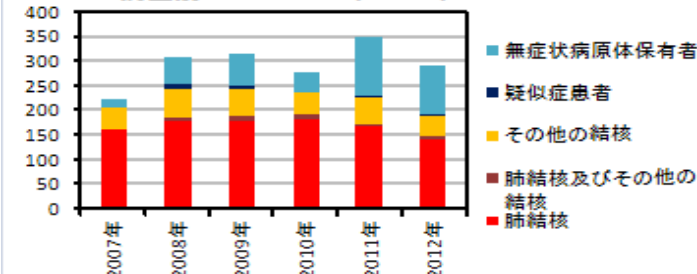
(人数) 届出累積数の比較 2007年-2012年



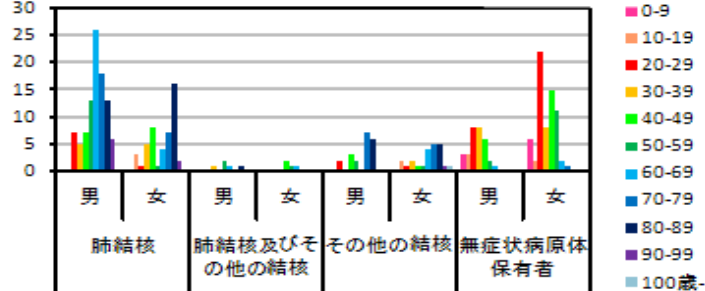
(人数) 性別・年齢階級別 2012年 1-52w n=293



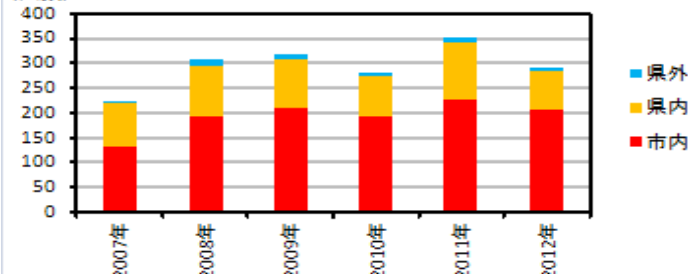
(人数) 病型別の推移 2007年-2012年



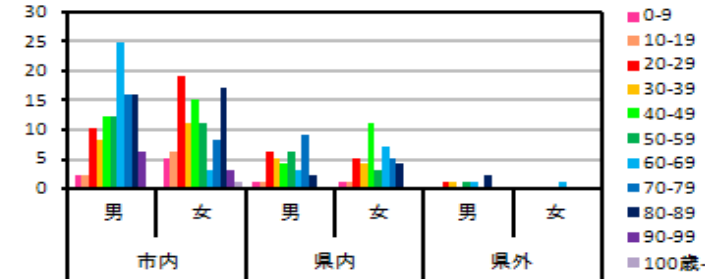
(人数) 病型別(性別・年齢階級別) 2012年 1-52w n=293



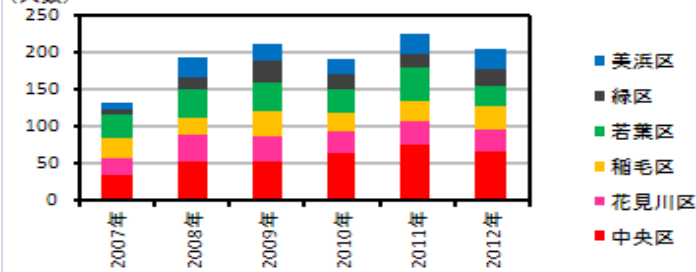
(人数) 住所地別の推移 2007年-2012年



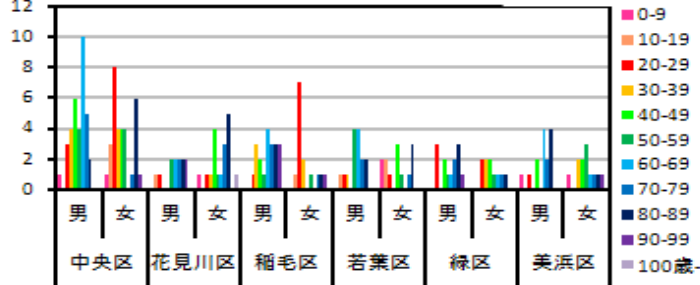
(人数) 住所地別(性別・年齢階級別) 2012年 1-52w n=293



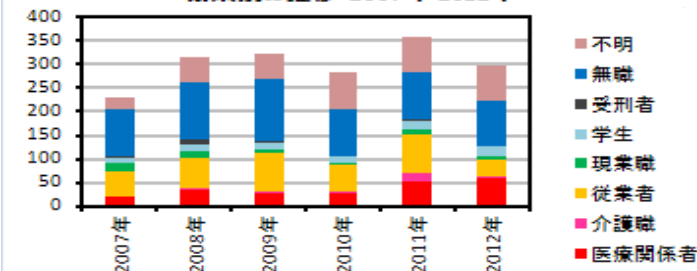
(人数) 住所地区別の推移 2007年-2012年



(人数) 患者住所(性別・年齢階級別) 2011年 1-52w n=293



(人数) 職業別の推移 2007年-2012年



(人数) 職業別 2012年 1-52w n=293

